

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	医療法人社団 紀洋会	代表者	岡本 のぶ子	法人・事業所の 特徴	和楽の郷は山や畑に囲まれ、近くには小学校や幼稚園があり、子供達の元気な声が聞こえてくるのどかな環境です。隣接施設としてグループホームがあり、向いには診療所があるので日中、体調を崩された場合の受診対応が可能です。小規模多機能として、通所、訪問、宿泊を組み合わせた柔軟なサービスを提供し包括的に利用者、家族の生活を支えています。毎月地域住民の方も参加される行事を10年以上継続して行っており、地域に愛される施設を目指しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 和楽の郷	管理者	志村 卓哉		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	人	1人	1人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の事前情報は情報提供書の内容で聞き取りを行い、情報提供書に確実に記入し情報共有する。利用が始まれば小規模ケアプランを作成し、細かい情報とニーズを聞き出し具体的なケアを実行していく。	『したいこと』を実現している⇒『内容』⇒小規模介護プランを作成して、プランを基にリハビリ・作品作り等個別の対応が出来ている。	地域資源⇒地域に何があるか、社会福祉協議会もまとめを作っている。	地域資源のリストを作成して利用者に提案や地域の方からの相談があった時に対応出来るようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	地域の方にも協力してもらい、事業所の主催で地域に向けた見学会を行う。	見学会の案内を出したが、募集がなく実施出来なかった。	『企業がある』という認識をするので入りやすくするというのは難しいですね。	事業所に入りやすい工夫として顔を繋ぐ必要がある。⇒地域行事への参加、出店をして地域に開かれた事業所として認識してもらう。
C. 事業所と地域のかかわり	まず、事業所を知ってもらう為に見学会を行い事業所説明と相談の第一窓口になれることを説明する。	見学会が出来なかったが、広報で相談が出来るという文を入れている。	誰が対応かわからないので(電話を)かけにくい⇒職員の誰でも相談は受けられる。所長とケアマネジャーに相談をしやすい	誰でも相談出来るが、相談しやすいように広報に所長とケアマネジャーの写真をのせて相談出来る事を伝える。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	以前は夏祭りの屋台周りは疲れるから行かない。という意見が多かったので行かなかったが、今年も行きたい方がおられないか聞き取りを行う。	独居の方に聞き取りをしたが、行きたい方がおられなかった。	草山地域では黄色い旗運動を実施しようとしている。和楽にも協力してもらい、地域の方を見守ってもらいたい。	黄色い旗運動に参加をして、草山にある事業所として、地域の方とも関わるようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で意見が出て改善をした場合は次の運営推進会議で経過報告をする。	経過や結果は運営推進会議の中で書類を出して報告出来ている。	地域の心配である方の事を相談、意見交換が出来ている。	心配である方の事例検討や、事業所での対応で困っていることなど運営推進会議のレジスに入れておき、毎回検討する。
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進委員にも防災訓練を行う案内を出して参加を依頼する。	防災訓練は実施出来たが、案内を出せず参加出来なかった。	草山地域全体の防災訓練も10年近く出来ていない。消防団では月に一回集まり点検などはしているが、自治会主催では行っていない。	運営推進委員の方に防災訓練に参加してもらえるように、運営推進会議の日に防災訓練を実施する。